

- 対象地域  
広島県山県郡北広島町  
(西中国山地国定公園)
- 設立日: H16.11.7
- 構成員数: 31人
- 全体構想作成日: H18.3.31
- 実施計画作成日: H18.10.30  
(R4.3月現在)

やわたしつげんしぜんさいせいきょうぎかい

## 八幡湿原自然再生協議会

再生  
目標

「命の環 つなげる」をキャッチフレーズに、牧草地造成前の昭和30年代前半頃の湿原生態系を再生する。

## 【事務局】

730-8511  
広島市中区基町10-52  
広島県自然環境課  
野生生物グループ内  
電話: 082-513-2933



本地域は、広島県の北西部に位置し、1,000m級の山に囲まれた標高800mの盆地です。また、ヌマガヤーマザミ群集に代表される中間湿原が点在し、自生のものとしては貴重なカキツバタが生育しています。

しかし、牧場化に伴う排水施設や道路の整備が原因と思われる湿原の乾燥化により、周辺部からアカマツやイヌツゲ等の木本類が侵入し、希少種の生育環境が悪化しています。このため、自然生態系の保全・再生のための計画を作成、湿原環境の再生に向けた取り組みを進めています。

## 活動報告

## 令和5年度自然再生協議会全国会議(熊本県阿蘇市)に参加して

【報告者】 協議会事務局: 佐々木恵美子・原竜也

本年度の自然再生協議会全国会議は、阿蘇草原再生協議会が受入機関となり、令和5年11月7日～8日の日程で阿蘇市で開催されました。当協議会からは、事務局の2名が参加しました。

全国会議の会場である阿蘇の草原は、野焼き等の人の関わりが無くなれば、数年で藪と化し、最終的には雑木林に姿を変えます。草原がもたらす豊かさだけでなく、水源涵養機能や炭素固定機能も失われてしまうため、阿蘇草原再生協議会構成員の各団体・個人が連携・協働して草原再生に取り組んでいます。

1日目は、大観峰での阿蘇草原の概要説明のあと、木落牧野にて(公財)阿蘇グリーンストック補助の下、牧野作業体験(防火帯づくりの草寄せ作業)を行いました。約2時間のこの体験は、阿蘇草原再生の基盤的作業であり、出席者に苦労も含めて実感していただくために企画されたものだけあって、かなりの重労働でしたが、スタッフによる丁寧な指導と解説、そして作業後の整った防火帯を見ると、清々しい気持ちになりました。

夕方の懇親会を通じて、多くの協議会が、活動資金の確保、及び関係者の高齢化による人材の確保と育成といった課題を抱えていることが浮き彫りとなりました。また、再生された、或いは再生しつつある活動地域・場所のワイズユース(賢明な利用)について問題意識を持たれている協議会も複数ありました。それぞれの課題を共有しながら、様々な知恵を持ち寄って解決に向かう一助となる場としての全国大会の意義を強く実感することができました。



木落牧野での作業体験

阿蘇草原保全活動センター草原学習館  
(2日目の会場)

2日目は、環境省から阿蘇草原再生事業の概要の説明がありました。阿蘇の雄大な草原の景色は人の手による継続的な維持管理作業により成り立っています。しかしながら、担い手不足など多くの課題によりこの草原が近い将来失われてしまうかもしれない現状があり、少なからず衝撃を受けました。こうした現状に対して、熊本県は後継者育成などの支援を行っています。また、地元企業は「阿蘇草原応援企業サポーター」として社員のボランティア活動参加への支援を行っており、企業として環境保全活動に取り組む仕組みづくりがなされています。企業との連携の好事例として興味深く感じました。

その後は、本会議のメインイベントである、自然再生基本方針の見直しに関する意見交換が行われました。「自然環境学習のさらなる推進」や、「ネイチャーポジティブ(世界目標で示された生態系の回復)に向けた取り組み」などについて、各協議会から意見が出されました。当基本方針は、自然再生推進法が施行されて以来、各年代の社会情勢を踏まえながら概ね5年おきに見直されており、令和6年度に新しい基本方針が公表される予定です。

2日間のプログラムは、自然再生協議会が法定協議会として存在することの意義や失われた自然を取り戻すことの難しさなど改めて考える、良いきっかけとなりました。この経験を当協議会での活動に活かしていきたいと思います。